

# たたみかけリターンズ

2008年12月3日

※今回の文章は、熱烈な「ザ・ノンフィクション・たたみかけシリーズ」ファンの皆様のご期待に添えるような下品な表現・危険な悪乗りなどがほとんど見られないうえ、自己満足だらけ、感じ違いだらけ、内輪ネタとツッコミどころ満載の短編となっております。刺激に満ちた長編を期待して下さっていたファンの皆様には、最初にお詫び申し上げます。

「たたみかけ」と「ヨーソロー」について、流通経済大学付属柏高等学校ラグビー部の部員父母を中心とする関係者に知って頂こうと考えたのがきっかけで、私は2004年に「たたみかけの起源」、2005年には「ヨーソローの起源」、さらにリクエストにお応えして2007年には「たたみかけエピソードワン」なる文章をピカレスク小説タッチで執筆し、流通経済大学付属柏高等学校ラグビー部応援団の迫力と狂気に満ちた応援の起源や哲学、その変遷などを紹介しました。そして流通経済大学付属柏高等学校ラグビー部応援サイトの管理運営者である松下氏の協力もあって、毎回多くの読者に目を通してもらうことができ、一部の熱狂的マニア(さらに増えて20名以上)からさらなる続編、つまり第4弾執筆のリクエストを頂きました。

長い文章であることがこの「ザ・ノンフィクション・たたみかけシリーズ」の特徴となっていました。前作や前々作を上回るような長編を執筆するに足るネタの発掘・創造は現実的に困難であるため、今回はいつもの長編の中で紹介されるようなエピソードの一つだけをピックアップして、フューチャーリングして、クローズアップして、モチーフにして、コンセントレートして、「たたみかけ」の持っているパワーの片鱗を軽くイントロデュースさせて頂きます。

2008年11月29日、印西市の松山下公園陸上競技場で関東大学ラグビーリーグ戦1部リーグの流通経済大学対日本大学の対戦が行われました。日本大学はこの年の全大学の中では平均身長・平均体重ともに最大の選手を揃えたフォワードを擁する強豪で、リーグ戦の順位・戦績ともに流通経済大学よりも上位でした。さらに私の放った密偵からの極秘情報によると、日本大学はこのシーズンの流通経済大学のすべての試合にビデオ偵察部隊を送り込み、流通経済大学の戦術やチームの特徴、さらに選手一人ひとりのクセにいたるまで詳細なリサーチを行っており、かつこの試合が両チームにとってリーグ戦の最終戦になるということもあり、この試合にチームパフォーマンスのピークを持ってくるよう調整しているということでした。要するに、日本大学は強敵(とも)だということです。しかし、流通経済大学にとっては、この試合に勝つか引き分けることができれば、全国の大学の中でたったの16校しか参加することのできない大学選手権の出場権を得ることができる非常に重要な試合でした。

私は職務中であるにもかかわらず試合のことが頭から離れず、ふと気がつくとその試合会場に来ていました。強い風が吹き荒れる中、風下での苦しいゲーム展開が続き、結局0対3で日本大学がリードしたまま前半が終了しました。たまたまたたたみかけのパイオニアである私が存在し、部員や父母と事前に応援練習を行い、試合中には体系的な応援を行うことのできる付属高校のラグビー部とは違い、基本的には学生が主体的にクラブ運営を行っている大学のラグビー部には、個人的に声援を送ることやトライの後に盛り上がることはあっても、観客席で観戦している部員達による応援と呼べるような強制力を持つ体系的なものはほとんどありません。当然、観客席の部員達はチームの勝利を祈りつつもおとなしく試合を観戦しているのが普通です。

風下でありながら、日本大学の得点を3点におさえて後半をむかえたので、今度は流通経済大学が風上となって、チャンスがやってくると思っていたところ、後半開始直前にピタリと風が止んでしまいました。誰かが巫女でも雇って、風向きを変えさせたとか思えませんでした。風向きも関係してか、流通経済大学フィフティーンの動きは冴えず、後半開始早々に日本大学にトライをされると、その後も10分と経過しないうちにまたもや得点を許し、気づいてみれば0対17で日本大学にリードされ、ワンサイドゲームに持っていかれてもおかしくないような展開になりつつありました。試合はそのままの雰囲気、味方のミスが多い中、なんとか相手の攻撃をし





